

# 大宮 (国宝) 御祭神

The Deities at Omiya (National Treasure Main Sanctuary)

第一殿 武甕槌命様  
The First Hall: Takemikazuchi-no-mikoto

第二殿 経津主命様  
The Second Hall: Futunushi-no-mikoto

第三殿 天児屋根命様  
The Third Hall: Amenokoyane-no-mikoto

第四殿 比売神様  
The Fourth Hall: Himegami

## 御由緒

平成二十八年十一月に行われた第六十次式年造替で、御本殿以下の社殿の丹塗も美しく蘇った春日大社は、今から千三百年程前、平城京鎮護のため、国譲りを達成された最強の武神である武甕槌命様（鹿島）を神山御蓋山に奉遷したのが始まりです。そして神護景雲二年（七六八）に御蓋山の中腹に四棟の神殿が造営されたことから本年は御創建千二百五十年を迎えます。第一殿に武甕槌命様（鹿島）、第二殿に建国を支えた大功のある武神の経津主命様（香取）、第三殿に天照大神様が天岩戸にお隠れになった際、祝詞を奏してお出ましを願った司祭神で、最高の知恵を持つ天児屋根命様（枚岡）、第四殿に天児屋根命様の后神で愛に満ち、平安時代から江戸時代末まで天照大神様としても信仰されていた比売神様（枚岡）がお鎮まりになりました。

春日大社はこうした四柱の偉大な神様を神聖な御蓋山の麓にご二緒にお祀りすることから春日四所明神・春日皇大神様と称えられ、多くの人々の崇敬をあつめてきました。そして平城京から長岡京に遷都されると、都の守護神として春日皇大神様をお祀りする大原野神社が、また平安京には同じように吉田神社が創建されるなど、全国各地に奉斎された三千社におよぶ春日の御分社、そして平安時代から奉納され続けられている境内の三千基もの燈籠は、春日皇大神様の篤い信仰の広がりを示しております。

当社は千古の森の緑の中に、色鮮やかな朱の御殿をはじめ諸社殿が往古と変わらぬ壮麗で瑞々しい姿でお鎮まりになっています。これは古代より二十年毎に斎行される式年造替によるものです。この式年造替では、御本殿をはじめ社殿の御修繕、御調度類の新調、祭儀の厳修が連綿と行われてきましたが、これにより神々様の御神威があらたまり、日本人の信仰・伝統文化が培われてきたのです。

そして今も昔と変わらず三月十三日に行われる大宮の御祭で日本三大勅祭のひとつに数えられる春日祭。そして十二月十七日を中心に行われる若宮の御例祭である春日若宮おん祭を始め、毎日朝夕の御神事など、年間二千二百回にも及び、祭典が行われ、日本の国はもとより、世界の平和、万民の幸福、そして共存共栄が祈り続けられているのです。



## The Origin of Kasugataisha

Kasugataisha's origin dates back more than 1,300 years, when Takemikazuchi-no-mikoto, powerful deity, was invited to the sacred Mt. Mikasa behind Kasugataisha after the establishment of nation's first capital in Nara. Then the shrine grounds were completed in 768 with the four halls respectively for Takemikazuchi-no-mikoto, powerful deity of warriors; Futunushi-no-mikoto, who worked for nation-building; Amenokoyane-no-mikoto, deity of wisdom and ritual; and his wife Himegami, who was revered as the Sun Goddess.

Kasugataisha has always received ardent respect from people around the nation, even after the capital was transferred to Kyoto. We can still see the people's faith in a shape of lanterns, stone or bronze, standing or hanging, which have been donated by worshippers since the 8th century. The vermilion shrine buildings stand out amidst the surrounding greenery, thanks to restoration works of shrine altars, buildings, and even furnishings, which have been conducted every 20 years since ancient times. With numerous rituals, this is a place of prayers for peace and prosperity for every person on earth.

\*Jinja is quite unique to Japanese culture, therefore no accurate translation is available, but it is often translated as "shrine" in English when necessary.

## 若宮

御祭神 天押雲根命様  
あめのおしむねのみこと

若宮様は平安の中頃、長保五年（一〇三）に大宮第四殿に神秘的な御姿で出現された水を司る神様。当初は第四殿の内に、その後獅子の間にお祀りされていましたが、保延元年（一一三五）に現在地に神殿を造営して遷宮が行われました。

毎年、十二月十五日から十八日にかけて行われる若宮の御例祭「春日若宮おん祭」は保延二年（一一三六）、折からの長雨のため全国に疫病や飢饉が蔓延したのを鎮めるために始まり、以来一度も途絶えることなく現在まで奉仕され、神様が本殿から御旅所にお遷りになり、再びお遷りになるなど古代の祭を伝える貴重な祭事です。また華やかな時代絵巻が繰り上げられる御渡り式や、平安朝以来の貴重な神事芸能が数多く演じられる御旅所祭等があり、国の重要無形民俗文化財にも指定されている日本を代表するお祭りの一つです。

## Wakamiya Jinja

Dedicated to Ameno-oshikumone-no-mikoto, deity of water Kasuga Wakamiya Onmatsuri takes place annually from December 15 to 18. It was started to pray for reducing the spread of epidemics and famines caused by continual rain, and has been held without any interruption since 1136. The performances associated with it, including a gorgeous procession of people in traditional costumes, are designated as Significant Intangible Folk Cultural Assets by the central government.